



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 11 月第 4 例会 (2011.11.22) No.2922

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

今週の始めから冬の寒さになりましたが、そんななか温かい話題はブータン国王夫妻が国会で演説し「不幸からより強く大きく立ち上がることができる国があるとすれば、日本と日本国民だ」と「平和と安定、調和を享受されますように」と仰ってました。国民総幸福 (GNH) の国らしく温かなエールを送り、また次の日ワンチュク国王、ペマ王妃は東日本大震災の被災地・福島県相馬市を訪れ小学生に「励ましと親愛を示すため来ました。」と述べ、「皆さんの中に人格という竜がいます。年をとって経験を積むほど竜は大きく強くなります。」と話しかけ、王妃は「再び日本を訪れたらまたこの学校に来ます。」と約束をされました。

福島県内で除染ゴミの仮置き場が難航する中、伊達市で農業を営む佐藤さんが私有地を同市に貸し出し「嫌々言ってたんでは除染は進まねえ。誰かが犠牲になんねえ」と話してました。男気ある勇氣と正義に拍手を送り、福島は沈まないという思いを深くしました。

さて、日本シリーズも終わり福岡ソフトバンクホークスが優勝しましたが、ソフトバンクの前身はダイエーであり南海でした。私が野球少年であった昭和36年頃 (ミスターが入団の年) プロ野球球団で、現在も残っているのは巨人・阪神・中日・広島のみです。時代の流れ・経済の流れを感じさせます。この辺の話は前川さんに卓話をお願いしたいと思います。私的な話題はベネトンの「反、嫌悪」です。ベネトンは毎年1回は話題を提供してくれます。あとは「凋落と終焉」これは流れに乗れずに流された事例です。

(3) 委員会報告

・若槻 良宏 IA 委員長より、12月23日新潟市内5校 インターアクトクラブ主催 クリスマス献血キャンペーンの協力お願い

11月29日の例会予定

会員スピーチ

「企業の課題解決に向けたICT活用の可能性」

東日本電信電話(株)新潟支店長 笠井 明 君

ホームページを更新致しました!

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

(4) 幹事報告 (宇尾野 隆副幹事)

被災地クラブからのお礼状紹介

・郡山北ロータリークラブ (会長 笠間 善裕)

いまだ東電福島第一原発事故の収拾に向けて、先が見えない中、つい先日報道機関に事故後は初めて内部公開されました。凄まじく破壊された建物等に発する言葉が失われたとの記事がありましたが、ただただ年内の冷温停止状態を祈るばかりです。この度、貴クラブから多大なるお見舞金を送金頂き、有難く感謝申し上げます。弊クラブはクラブ目標としてインターンシップ体験発表会の実施を掲げています。継続し毎年行っており、青少年育成の活動を積極的に進めているところでもあり、力強いご支援に対して誠にお礼申し上げます。去る10月30日にクラブで秋の小旅行があり、新潟市のカーブドッチワイナリーに行きまして、温泉に入り地ビールとワインを飲みながらの昼食で楽しいひと時でした。新潟平野の広々とした中での自然の美しさを満喫し、心地良い一日を過ごす事が出来ました。これからは寒さ厳しい季節に向かいますが、会員の皆様方のご健康にはくれぐれもお気をつけて下さい。

・岩沼ロータリークラブ (担当 国井 真一)

この度は貴クラブ様よりお見舞金として8万円を頂きましたこと、ありがたく心より御礼申し上げます。この貴重なお見舞金を有効に活用させて頂く事をお約束致します。さる10月29日には、名取高校インターアクトクラブ生、岩沼ボーイスカウト、岩沼ガールスカウトの皆さんと社会奉仕活動作業を行いました。詳しくは別紙をご覧ください。尚、今後の予定としましては 12月 養護支援施設「すぎのこ学園」でのクリスマス会へ参加訪問、2月 岩沼市内小中学校、宮城県名取高等学校の児童、生徒を対象とした善行児童生徒、スポーツ並びに文化面で活躍した児童、生徒の岩沼ロータリークラブでの表彰 4月 岩沼ロータリークラブ主催 「岩沼少年剣道大会」を予定しております。貴クラブ様からのお見舞い金は、被災児童、生徒を含めて青少年のためにお役立てたいと考えております。貴クラブ様の今後のご活躍とクラブ会員様方のご健康を心より祈念申し上げます。

・ロータリー財団東日本震災復興基金への寄付締切は12月末日を予定していましたが、皆様から寄付の要望が多く、2012年6月30日まで延長されることが決まりました。(ポール・ハリス・フェローの認証の対象となるのは12月末日までです) 皆様からのご寄付は、日本のロータリアンが被災地を復興を支援するプロジェクトのために100%使われます。基金を管理する東日本震災復興基金日本委員会には日本中のロータリアンから140を超える復興支援プロジェクトが寄せられおり、委員会の6人のメンバーは会合、視察、事務手続き等すべてボランティアで行っています。(プロジェクトの詳細はロータリーの友11月号17ページ参照) 復興基金には現在までに570万ドル以上が集まっており、既に330万ドル以上が使われています。送金明細書とDDF寄贈書式を改めて添付いたしました。公益財団法人ロータリー日本財団への個人、法人からのご寄付は、寄付者の税制上の優遇措置の対象になります。

(5) 浪江RC 松本 英明君のお話

コラム

(株)コバリキ

代表取締役社長 小林建

「WSDとKO」

私は、入会の際にも紹介して頂きましたが、なにかと比較対照される2校を経験しています。両校を知る者として偏見に満ちた校風論をひとつ。ただしWはともかく、後で入ったKOは日吉の校舎群とは駅の正反対に校舎があり、三田には入学式と卒業式に行っただけ、ましてや同期生は企業派遣のおじさん達ばかりでしたので、あくまで新潟の同窓会のイメージです。ちなみに両校の同窓会の名称は、Wは稲門会、Kは三田会です。

まず典型的な両校学生のイメージとしては、Wはバンカラ、Kはスマートということでしょうか。これは全くその通りです。いや私もおしゃれだとか、ワイルドだとか思っている方も多いでしょうし、実際本人のキャラと学校のカラーが持つイメージがそぐわない方も多いです。しかし、集団(5人以上集まると)が醸し出す雰囲気は、まさにそのイメージです。

また、Wはバンカラからの派生的イメージとしてなのか、一匹狼が多いと言われています。これもまさにその通りで、Wの誇りであると同時に、まとまりのなさにもつながっています。両校のメモリアル周年祭での募金においては、Kは短期間で集まりましたが、Wは本部からの度重なる依頼(なだめすかしての)により数年かけて集めました。Wには医学部がなく、その方面からの寄付が見込めないのも一因ではありますが。

これは私のW大生時代の感想ですが、WにKをあこがれる人はいても、KにWをうらやむ人はいなかった様な気がします。卒業してからはそう感じることはありませんが、高田馬場の居酒屋で合成酒をくらっていた地方学生には、幼稚舎からあがってきた都会のKOボーイがまぶしく見えたのは間違いありません。

面白そうなネタとして何とかひねりだして勝手なことを書きましたが、両校を経験したことが、私の世界観、職業観の土台になっていることは間違いありません。本当に感謝しています。

最後に、私は両校共同同窓会の幹事を努めています。職場に卒業生がいましたら是非ご連絡ください。特に若手の社員さんには人脈を広げるだけでなく、営業面での実利も必ずありますので、支店長、支社長命令で登録をお願いします。